

## 令和6年度私立学校初任者研修関東地区神奈川県研修会実施概要

～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実施：一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会

会期：令和6年8月6日（火）～8月7日（水）

会場：聖光学院中学校高等学校（神奈川県横浜市）

参加人員：162名

参加対象者：神奈川県私立中学高等学校協会に加盟する私立中学校・高等学校・中等教育学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

### 日程細目

第1日目 8月6日（火）

9:00	開 会 式 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 摺河 祐彦 来賓挨拶 神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課 教育指導総括 倉田 慎一 運営委員長挨拶 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 運営委員長 望月 伸一郎 協会役員・初任者研修運営委員紹介
9:30	研修1－講話 演 題： 「私学の教育の現状と私学人の使命」 講 師： 工藤 誠一 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事長 聖光学院中学・高等学校 理事長・校長
10:30	休憩・移動
10:50	研修2－講話 演 題： 「自分の声を知る」 講 師： 紺野 美沙子 俳優・朗読座主宰 山口 容子 元テレビ朝日アナウンサー 山本 郁子 俳優
12:40	昼 食
13:40	研修3－全体会概説 テーマ： 「生徒指導について」 指導員： 吉田 和市 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会研究部生徒指導研究委員会 委員長 三浦学苑高等学校 校長
14:10	研修3－グループ討議 テーマ： 「生徒指導について」 指導員： 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会研究部生徒指導研究委員会委員 他
16:10	今日の振り返り
16:40	「振り返り用紙」記入

第2日目 8月7日（水）

8:50	諸連絡
9:00	研修4－講話 演 題： 「教育の最新動向と教員の心構え」 講 師： 竹内 博之 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事 学校法人鎌倉学園 理事
10:00	
10:20	休 憩

10:20	<p>研修5－ワークショップ</p> <p>テーマ： 「コーチング（グループによる活動）」</p> <p>指導員： 齊藤 建吾 日本マクドナルド(株)ハンバーガー大学 ファシリテーター  佐藤 三恵子 日本マクドナルド(株)ハンバーガー大学 ファシリテーター</p>
12:00	<p>狩野 貴史 日本マクドナルド(株)ハンバーガー大学 ファシリテーター</p>
	昼 食
13:00	<p>研修6－全体会概説</p> <p>テーマ： 「教科指導について」</p> <p>指導員： 吉田 和市 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会研究部教科専門委員会 委員長  三浦学苑高等学校 校長</p>
	<p>研修6－教科別分科会</p> <p>テーマ： 「教科指導について」</p> <p>指導員： 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会研究部教科専門委員会委員 他</p>
15:40	研修のまとめ
16:10	「振り返り用紙」記入・提出
	休憩・移動
16:30	<p>修了証授与式</p> <p>来賓挨拶 神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課 課長 山田ふみ子  主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所  修了証授与 私立学校初任者研修等事業検討委員 摺河 祐彦  運営委員長挨拶 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 運営委員長 望月 伸一郎</p>
16:50	
	移 動
17:15	<p>交流会</p> <p>開会挨拶 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 副理事長 田沼 光明  閉会挨拶 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 研究部部长 鳥越 政晴</p>
18:45	

## 概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】宮阪元子・初任者研修関東地区神奈川県運営副委員長より開会が宣言され、主催者を代表し、摺河祐彦・初任者研修等事業検討員は「私立学校の教員には3つのPが必要だと考えている。①パブリック②プロテクト③パイロットである。パブリックとは、公教育の一端を担い社会に貢献する存在であるということ、プロテクトとは時代や社会が変化したとしても建学の精神のもと、教育を展開するということ、パイロットとは私立学校は時代を牽引していくという気概をもって教育を行っていく必要がある、という意味である。この3つを自分自身は大切にしてきた。この初任者研修が参加者にとって成長のひとつのステップになることを祈念する。」と述べた。



摺河祐彦氏

### 【研修1】「私学教育の現状と私学人の使命」

工藤誠一・一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事長  
聖光学院中学・高等学校 理事長・校長



工藤誠一氏

工藤講師は、「私学はそれぞれの学校が建学の精神を持っているため、各校が独立しており別々だが、これからの時代はそれだけではなく、それぞれの学校が協力し手を携えながらやっていく必要がある。」と述べ、「個の独立と群の創造」という言葉を掲げた。また、教員不足を解消するために特別免許状の活用も必要不可欠であると述べた。

### 【研修2】「自分の声を知る」

紺野美沙子・俳優、朗読座主宰／山口容子・元テレビ朝日アナウンサー／山本郁子・俳優  
紺野講師は自身の経験から初等教育の大切さを訴え、「恵まれた環境にいる我々には責任があると思う。」と述べた。山口講師は恩師の言葉である「声は人なり」を挙げ、声の重要さを説いた。声のケアとしては、ストレッチをすること、冷やさないことが重要であると説明した。その後山本講師指導のもと、習ったことを踏まえながら全員で群読を行った。

### 【研修3ーグループ別討議】

はじめに吉田和市・三浦学苑高等学校 校長／生徒指導研究委員会委員長より概説があり、その後各グループに分かれ、あらかじめ設定された生徒指導に関するテーマの中から2つ選択し、討議したあと発表を行った。

### 【研修4】「教育の最新動向と教員の心構え」

竹内博之・一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 理事  
鎌倉学園中学校・高等学校 理事・元校長



竹内博之氏

竹内講師は、公立と私立の役割の違いを述べ、さらに生徒指導、入試広報、いじめ防止対策についてそれぞれのポイントを述べた。

### 【研修5ーワークショップ】

株式会社日本マクドナルド ハンバーガー大学のファシリテーター指導のもと、グループごとに生徒役と教師役に分かれてコーチングエクササイズを行った。



### 【研修6ー教科指導について】

教科毎に11グループに分かれ、教科の指導等で抱えている悩み等について話し合った。

### 【修了証授与式】

主催者を代表し、摺河祐彦・初任者研修等事業検討員が、「研修を通して先輩の先生方から様々なことを学んだと思う。先輩方の思いを受け取って一人前の私学人になることを願っている。」と述べた。

## 参加者アンケートより

### 研修1 「私学の教育の現状と私学人の使命」(工藤先生)

- 「弧の独立、群の創立」という言葉に表現された「私学の教員としての心構え」を改めて再認識した。現代の教育で社会からも父母からも要求されている、「多様性(変化)」や「公正な物事の捉え方(普遍の理論)」を教育で行うには私学の「自由と社会的多様性」の本懐に一致するとも感じた。改めて進一層の心構えで努めたい。
- 「ぬくもりを伝える」ことができるのは人間だけであるという言葉に感動した。AI の台頭が叫ばれる中、人間の教員がなぜ必要なのかという問いに対して、「人間性は人間にしか教育できないから」という言葉でくっつけて考えていたが、本日この言葉を聞いて、その考えに多様な視野が加わったように感じている。私学には時代や情勢によって左右されない建学の精神という、独自の強みがあるので、その強みのもとに生徒の人格形成にははたらく必要性を改めて実感した。

### 研修2 講話「自分の声を知る」(紺野先生・山口先生・山本先生)

- 教員として言葉の重要性は日頃から気を付けてきた。「言葉は刃物」使い方次第で良くも悪くも使えてしまうものである。しかし、今回の講演でそれを相手に伝える声も言葉と同様の性質を帯びており、声のトーン・表情も使い方を誤れば、意図しない方向へ生徒は受け取ってしまうことがあることに気づいた。武士の刀と同様に教員の刀は言葉であり声という意識で日々磨くことを怠らないようにしたい。
- 「声は人なり」という言葉を伺い、自身の考えや気持ちだけでなく、勇気を与える強力な武器であることを理解できた。腹式呼吸のやり方やストレッチして発声する方法を講義で学習したため、授業前に実践していきたい。また、メンタルを整えるためにも呼吸法が役立つことを教えていただいた。「自分を成長させるための声」、「教育とは、学校で習ったことを全て忘れた後に残っているもの」という言葉を忘れずに、声を使って自分の思いだけでなく大切なことを生徒に伝えていく。

### 研修3 グループ別討議「生徒指導について」(吉田先生)

- 似たような問題意識や悩みを共有することができ、またほかの先生方の対応等についても聞くことができ、とても参考になった。生徒指導に関してはどうしてもケースバイケースの対応になることも多く、また、その場での判断が後々に影響してくることも多いため、難しく感じることが多いが、どうして指導をするのか、という点においては学校、学年、そして自分の中にも軸をおいて対応していきたい。
- 主に「保護者対応」と「SNS の対応」と言う内容に関して各学校の対応を検討した。内容は多岐に渡り、「保護者への成績対応」や「日頃の態度」における教師と保護者の認識の差を埋める為には、「いかに生徒起点の指導なのか」と言う部分が重視されると感じた。また「SNS」においてはその使用を指導する際の「校則の在り方」に関してもかなり試行錯誤している実態が明らかになった。

### 研修4 「教育の最新動向と教員の心構え」(竹内先生)

- 「教師の姿勢」と言うものが保護者への対応や学校運営に携わっていく中で、いかに重要な位置づけかを実感した内容だった。特に昨今の動向としての学費補助金と経常補助金の兼ね合いのみならず、そうした地域的な生徒募集の難しさと、教師の考える教育の本質との兼ね合いを想起させられる内容だった。
- 学校で全てサポートするというわけではなく、家庭教育の重要性についても保護者に伝えて、学校におけるサポートと家庭の協力を得て共に生徒を育むことが必要だと考えた。日頃から生徒の小さなサインを見逃さないように意識して、教員から声掛けをするなど積極的にコミュニケーションをとっていく。何か些細なことも学年や学校全体に報告し、チームで問題に対処することの重要性を再認識した。

### 研修5 ワークショップ「コーチング」(株日本マクドナルド ハンバーガー大学ファシリテーター)

- ただ傾聴するだけではなく、どう有意義に質問していくのか、内容だけではなく感情や表情、その裏に何か隠れていないかを意識して相手に向き合っていくことが重要だと感じた。生徒の目線で何を聞いて欲しいのか、どんな言葉が欲しいのか、そのような点も考えさせられる良い機会となった。教員としての理想を常に考えながら、ギャップを理解し理想に近付けるよう日々取り組みたい。
- 話し方や仕草などから他者がどのように感じて、人となりを受け取るのかについて整理することができた。今回、「温かさ」(好感度)と「強さ」(能力)のバランスについての話をしていただいた上で、自分の自己紹介を見直すことが多くあり、今後はこのバランスを上手くとれるようにしていきたい。また、「聴く」というだけでも多くのスキルがあり、生徒の話を聴くときに実践していけば、より生徒に寄り添うことができるはずなので、活用していきたい。